岩手県立埋蔵文化財センター所報（No.137）
平成30年2月28日　発行

わらびて

137号

11月2日洋野町のサンニヤⅢ遺跡で、体験学習会を開催しました。参加したのは、洋野町立種市中学校の1年生約50名。遺跡が縄文時代の狩猟場だったことや、発掘調査の流れについて説明を聞き、実際発掘で使用する道具を手に作業を体験しました。

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは、東日本大震災の発災以来、復興事業に関連する発掘調査を行ってきました。沿岸各市町村での調査面積は合計70万㎡にのぼり、その発掘現場において、地域の皆様からの御支援のもと調査を進めてきました。その中で、一般の皆様を対象とした説明会や、近隣の学校の児童・生徒を対象に、体験学習会を開催し地域の歴史に関心を深めていただく機会を設けています。

今号の特集、『震災と埋蔵文化財』では、震災から7年の調査を振り返ります。

主な内容

◆平成29年度の成果
（公財）岩手県埋蔵文化財センター
◆平成29年度に注目された遺跡
◆特集
震災と埋蔵文化財
◆平成29年度イベントの報告

【所報名について】「わらびて」は**蕨手刀（わらびてとう）**に由来しています。 蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨（さわらび）の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

平成29年度　発掘調査の成果

今年度は県内７市３町２村の33遺跡、発掘調査面積で約100,000㎡の調査を実施しました。発掘調査の８割以上は、復興道路・復興支援道路建設を中心とした東日本大震災復興関連の事業に伴うもので、調査した遺跡は縄文時代から中世まで各時代にわたっています。

縄文時代　ふたつの貝塚

大船渡市内に所在する内田貝塚と長谷堂貝塚の発掘調査が時を同じくして行われました。両貝塚とも大船渡湾に面した貝塚遺跡で、古くから知られていた貝塚です。

内田貝塚では、縄文時代前期の貝層から、スガイやレイシなどの貝殻、マグロなどの魚骨、イルカ・アシカ・シカ・イノシシなどの獣骨、骨角器・貝輪などが見つかっています。

一方、長谷堂貝塚では縄文時代中期後半の貝層が確認され、シカ・イノシシの骨やカワウなどの鳥類、サバ・マイワシ・アイナメ・サケなどの魚骨のほか、複数の犬の骨がまとまって見つかるという非常に特異な事例も確認されました。

時代を異にする貝塚、そこから出土する様々な遺物は、当時の生態系や縄文人の豊かな食生活一端を教えてくれる貴重な資料です。

弥生時代　沿岸の弥生史を濃くする

弥生時代前半と思われる住居跡が宮古市沼里遺跡から見つかっています。久慈市の北野Ⅻ遺跡、宮古市の根井沢穴田Ⅳ遺跡では中期から後期の土器が発見されており、事例は少ないものの内陸同様に弥生時代の営みの痕跡が確認されています。

古代　鉄製品遺跡の北上

大規模な集落の調査事例はありませんでしたが、奥州市の杉の堂遺跡で平安時代の竪穴建物が４棟調査されました。土師器・須恵器の他、当時の高級陶器の一つである緑釉陶器の皿、「舘」？、「館」？、「寺」、「宮尾」？と墨書された土師器の坏が見つかっており、一般集落とは異なる事象が見受けられました。

古代～中世と推定される鉄生産関連の遺跡調査が洋野町の南八木遺跡で行われ、製鉄から鍛錬までの一連の作業が行われていたことが分かりました。沿岸部、特に大槌町以北に分布密度の高い鉄生産の痕跡が沿岸北部にまで分布することが改めて確認されました。

中世　城館跡の調査

内陸部では、一関市に所在する葛西家の家臣今野氏が城主と伝えられる千厩城遺跡が調査されました。城館跡全体が大規模に改変を受けていましたが、今回の調査で二の郭の前面の平坦地と埋もれた曲輪が確認されました。

沿岸部では、野田村にある伏津館跡の調査が行われましたが、館跡本体から離れた場所であることから関連の遺構の発見はありませんでした。宮古市にある千徳城遺跡群に含まれる堀合館跡の調査が行われました。中世の竪穴建物、土坑、堀、溝跡などが見つかりました。28年度に引き続き調査が行われた、大槌町の挟間館跡の調査では、平場９箇所・犬走り２条のほか、15～16世紀の中国産磁器・国産陶器のほか、鉄鏃・小札などの鉄製品が見つかりました。

近世　町屋敷跡の調査

奥州市の町屋敷遺跡では、17世紀の中頃に成立したと推測される町屋敷の跡が調査され、近世以来踏襲され使用されている市道に面するように主屋、付属屋、屋敷地どうしを区分する溝跡などが見つかっています。

野田村　伏津館跡

埋蔵文化財センターの発掘調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	調査期間	事業名	主な時代	調査成果
1	町屋敷遺跡	奥州市	5,020	7/4 ～ 11/30	一般国道４号水沢東バイパス	奈良・近世	縄文：陥し穴３　奈良：竪穴住居３近世：掘立柱建物 52 棟、土坑 135、柱列５、溝５
2	岩洞湖Ⅰ遺跡	盛岡市	850	9/19 ～ 10/13	岩洞ダム貯水池護岸工事		検出遺構　なし
3	岩洞湖Ｈ遺跡	盛岡市	1,360	9/19 ～ 10/13	岩洞ダム貯水池護岸工事	縄文・古代	陥し穴１
4	内田貝塚	大船渡市	3,027	6/1 ～ 9/29	主要地方道大船渡広田陸前高田線	縄文	縄文：竪穴住居１、土坑９、貝層１
5	杉の堂遺跡	奥州市	1,160	6/16 ～ 10/13	一般国道 397 号小谷木橋	縄文・古代	縄文：竪穴住居５、掘立柱建物５、墓壙１、土坑 47、炉跡１、遺物包含層１奈良：竪穴住居２、竪穴状遺構１　平安：竪穴住居６　時期不明：掘立柱建物１
6	耳取Ⅰ遺跡	西和賀町	950	9/1 ～ 9/15	地域連携道路整備事業	縄文	時期不明：土坑１
7	長谷堂貝塚	大船渡市	800	6/1 ～ 12/14	市道猿石線道路改良事業	縄文	縄文：竪穴住居９、土坑 82、焼土３、配石５、埋設土器１、貝層２　近世：竪穴状遺構１、配石２、溝２
8	千厩城遺跡	一関市	560	11/1 ～ 12/1	県単独急傾斜地対策事業	中世	中世：平坦面　曲輪１
9	田鎖車堂前遺跡	宮古市	3,105	4/4 ～ 6/2	宮古西道路	縄文・弥生・奈良～平安	縄文：竪穴住居 51、土坑 71、配石、粘土採掘坑　弥生～平安：土坑 19　奈良～平安：竪穴住居 40
10	和野新墾神社遺跡	田野畑村	1,000	4/10 ～ 4/27	三陸沿岸道路	縄文	縄文：土坑１　時期不明：土坑１、焼土１　現代：炭窯１
11	伏津館跡	野田村	850	10/16 ～ 12/7	三陸沿岸道路	縄文・古墳末～奈良	縄文：竪穴住居１、土坑１、土器捨て場 300 ㎡　古墳末～奈良：竪穴住居４、焼土１、溝１
12	北野Ⅻ遺跡	久慈市	1,120	9/19 ～ 10/13	三陸沿岸道路	縄文	縄文：陥し穴３、土坑１、焼土１　時期不明：柱穴状土坑３
13	木戸場遺跡	久慈市	580	5/1 ～ 5/31	三陸沿岸道路	縄文	縄文：陥し穴１、土坑１
14	田ノ端Ⅱ遺跡	洋野町	1,000	10/16 ～ 12/15	三陸沿岸道路	縄文	縄文：竪穴住居６、竪穴状遺構 14、土坑 46、埋設土器１、陥し穴 10、柱穴４、捨て場１
15	サンニヤⅢ遺跡	洋野町	17,200	4/7 ～ 11/30	三陸沿岸道路	縄文	縄文：陥し穴 42
16	荒津内遺跡	洋野町	10,770	4/17 ～ 9/15	三陸沿岸道路	縄文	縄文：陥し穴 17、土坑 37、溝１
17	宿戸遺跡	洋野町	11,360	4/10 ～ 11/30	三陸沿岸道路	縄文	縄文:竪穴住居 25､土坑 67､埋設土器４、陥し穴 22、焼土 20　配石遺構２　現代:炭窯１
18	南八木遺跡	洋野町	700	7/3 ～ 9/15	三陸沿岸道路	縄文・古代・中世	縄文：陥し穴１、土坑２　古代～中世：工房２、鉄生産関連炉５、粘土採掘坑２、柱穴状土坑 13、溝１、排滓場 50 ㎡、時期不明：炭窯１
19	南鹿糠Ⅰ遺跡	洋野町	2,100	4/7 ～ 5/22	三陸沿岸道路	縄文・奈良	縄文：竪穴住居１、土坑５、陥し穴６奈良：竪穴住居１
20	鹿糠浜Ⅰ遺跡	洋野町	6,450	6/1 ～ 12/15	三陸沿岸道路	縄文	縄文：配石１、竪穴住居３、陥し穴７、土坑 29、柱穴状土坑 16、土器捨て場２、集石１
21	鹿糠浜Ⅱ遺跡	洋野町	8,900	4/19 ～ 9/15	三陸沿岸道路	縄文・奈良	縄文:竪穴住居 17､土坑 67､埋設土器２、陥し穴７、柱穴 49、遺物集中区２
22	北玉川遺跡	洋野町	5,400	10/2 ～ 12/5	三陸沿岸道路	縄文	縄文：竪穴住居３、土坑 41、陥し穴５近代：炭窯４　出土遺物　縄文時代：土器ｺﾝﾃﾅ大 1/2　石器ｺﾝﾃﾅ大 10
23	上のマッカ遺跡	洋野町	450	6/5 ～ 6/30	三陸沿岸道路	縄文・平安	縄文：陥し穴１、古代：工房跡１　近世以降：炭窯１　時期不明：土坑４
24	中野城内遺跡	洋野町	700	10/16 ～ 11/29	三陸沿岸道路	縄文	縄文：陥し穴８、土坑２、遺物包含層１
25	北ノ沢Ⅰ遺跡	洋野町	850	4/7 ～ 5/15	三陸沿岸道路	縄文	縄文：埋設土器 13、土器捨て場１
26	千徳城遺跡群	宮古市	2,800	7/18 ～ 12/15	三陸沿岸道路	古代・中世	古代：竪穴住居 13、土坑５　中世：竪穴建物５、土坑１、道路状遺構２　柱穴状土坑 36　近世～近代：墓壙１
27	青猿Ⅰ遺跡	宮古市	1,400	4/6 ～ 12/15	三陸沿岸道路	縄文・古代	古代：竪穴住居６、住居状遺構２、工房跡(鉄生産関連)１、土坑 34、炭窯２近代：家畜埋葬墓７
28	田屋遺跡	大槌町	2,550	4/6 ～ 5/31	三陸沿岸道路	縄文	縄文：性格不明遺構１　時期不明：焼土１
29	小白浜遺跡	釜石市	1,142	4/10 ～ 6/6	三陸沿岸道路	縄文	縄文:竪穴住居８、焼土１、埋設土器１、土坑１、柱穴１
30	挟田館跡	大槌町	4,016	4/6 ～ 6/2	三陸沿岸道路	中世	中世：平場９、犬走２、竪穴建物１
31	根井沢穴田Ⅳ遺跡	宮古市	340	9/1 ～ 9/29	三陸沿岸道路	弥生・古代	古代：竪穴住居１　時期不明：焼土１
32	沼里遺跡	宮古市	481	9/19 ～ 10/12	三陸沿岸道路	縄文・弥生	弥生：竪穴住居１　古代：竪穴住居１
33	中平遺跡	野田村	552	11/1 ～ 12/7	三陸沿岸道路	縄文・古墳末～奈良	縄文：陥し穴６、土坑１　古墳末～奈良：竪穴住居２、方形周溝１　近現代：溝１

平成29年度に注目された遺跡

九戸村　黒山の昔穴・外久保・長興寺Ⅸ遺跡

【平安時代後期】

黒山の昔穴遺跡は、折爪岳南側麓（標高約420m）にある極めて保存状態の良い平安時代後期の高地性集落です。

平成29年度は、これまでの黒山の昔穴遺跡と同様の遺跡を探す分布調査で確認された、外久保遺跡と長興寺Ⅸ遺跡を対象に発掘調査を実施しました。外久保遺跡は黒山の昔穴遺跡の南東方向に位置し、長興寺Ⅸ遺跡は更に南東方向に位置しています。

はじめに長興寺Ⅸ遺跡にある6基のうち2基の窪地を調査しました。その結果、平安時代後期と思われる遺物は確認されなかったものの、十和田a（西暦915年降下）と呼ばれる火山灰を切り込んで作られていること、焼土と微粒炭層が堆積していることが確認されました。

次に外久保遺跡にある7基の窪地のうち、方形状で1辺が約9mを越える大型の窪地1基を調査しました。その結果、平安時代のものと思われる土師器及び須恵器の一部や鉄製品等が確認されました。

今回の調査により、外久保遺跡及び長興寺Ⅸ遺跡ともに平安時代後期の遺跡である可能性が高いことが確認されました。今後は、各遺跡の関連性を調査していく予定です。

（九戸村教育委員会　桂川 祐太郎）

外久保遺跡発掘調査の様子

住田町　栗木鉄山跡

【明治～大正】

栗木鉄山は、明治14年から大正9年まで稼働していた製鉄所です。最盛期には鉄の生産量が日本で第4位（民間では第3位）、従業員が五百数十人いたと言われ、二つの高炉のほか、職員・工員住宅、郵便局や購買、学校までが設置され、製鉄村を形成していました。過去の調査で保存状態が極めて良好であることが確認され、重要な近代産業遺跡として岩手県指定史跡となっています。

今回の調査で、第一高炉の地下構造は、昔の川底の石のすき間に小さな石を詰めて整地し、その上に粘土混じりの砂や小石を突き固めて基盤が作られていることが分かりました。基本に忠実に花崗岩の切り石を敷いて作られた基盤だと想像されましたが、そうではなく、かなり省力化が図られていることが分かりました。

本社事務所跡は、表土（腐葉土）を除去するとすぐ礎石が現れ、インク瓶やビール瓶、陶磁器も見つかりました。事務所の造りも釜石鉱山事務所と比べると質素な感じを受け、事業全体の省力化を進めていたように思われます。

（住田町教育委員会　佐々木 喜之）

発掘された第一高炉炉底

紫波町　南日詰大銀Ⅱ遺跡（みなみひづめだいぎん）　【12世紀】

南日詰大銀Ⅱ遺跡は紫波町南日詰字小路口地区に所在し、北上川右岸に立地する中世の遺跡です。

今回は、紫波、稗貫衛生処理組合衛生処理場の施設解体工事に伴い第３次調査として実施しました。

発掘調査では、竪穴住居跡１棟、掘立柱建物１棟、土坑跡 14 基、井戸跡７基、溝１条、柱穴 277 個などの遺構が検出され、土師器杯・甕、かわらけ、国産陶器、中国産陶器、木製品、壁材などの遺物が出土しました。特にも柱穴の底から完形のかわらけ５個が重なって出土し、また、井戸跡からは常滑の大甕、かわらけ、中国産白磁などが出土しました。これらの遺物は、いずれも 12 世紀の時代のものであり、この遺跡の西方約 750 ｍに所在する比爪館遺跡と関連が深いと考えられます。

これまでの発掘調査により貴重な資料を得ることができました。今後この資料を基に、どの様な人物の居舘跡か、また、どの様な性格を持った施設なのか、研究が進むことが期待されます。

（紫波町教育委員会　鈴木 賢治）

井戸跡の底から 12 世紀の遺物である国産陶器の常滑産大甕、かわらけ、中国産陶器の白磁などが出土。

平泉町　柳之御所遺跡（やなぎのごしょ）　【12世紀】

柳之御所遺跡は、奥州藤原氏の政庁「平泉館」と考えられています。今年度は柳之御所遺跡の堀内部と外部が接する堀内部北西端周辺を調査し、遺跡を区画する２条の堀跡と外側の堀跡に架かる橋跡を確認できました。

２条のうち、内側の堀跡は幅 12 ～ 13 ｍ程で南北方向に伸び、12 世紀後半に機能した遺構です。外側の堀跡は幅５～６ｍ程で南北に走り、これまでの調査成果から内側の堀跡より古い遺構と判断できます。土橋は外側の堀跡の部分で現状では幅 4.5 ｍ程で、堀構築時に地山を掘り残して形成されています。位置などから土橋の上面部分が道路として機能したと考えています。外側の堀跡はその後、人為的に埋め戻しが行われます。土橋もこの土層に覆われており、周辺一帯で整地事業が行われたとみられます。

柳之御所遺跡では堀の内部と外部のそれぞれで中尊寺方向へ延びる道路跡が確認されています。今回見つかった橋跡はこれらとつながるとみられ、柳之御所遺跡と中尊寺との関係を補強する大きな意義をもつものと考えています。

（岩手県教育委員会　千葉 正彦）

堀の外側から見た堀跡２条と土橋。左右から伸びた外側の堀跡に挟まれた掘り残し部分が、堀を渡るための橋（土橋）。

特集　震災と埋蔵文化財

復興発掘調査が明らかにしたもの

山田町 間木戸Ⅰ遺跡
現地説明会

平成23年3月11日、三陸沿岸を襲った大津波によって甚大な被害を受けた地域は、早急な暮らしの再建とまちの復興のため多くの土木工事に先立ち発掘調査が行われました。（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターではこれら復興関連事業に伴う発掘調査を、「復興発掘調査」と位置づけ、調査体制を強化してまいりました。

復興発掘調査は、沿岸部の歴史を解明する数多くの資料をもたらしました。ここでは、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの調査の中で数多く調査された、縄文時代中期の集落遺跡と古代の鉄生産関連遺跡の一部を紹介します。

大集落がひしめく宮古山田地域

－縄文時代中期

宮古市高根遺跡や山口駒込Ⅰ遺跡、山田町沢田Ⅲ遺跡や間木戸Ⅰ遺跡、石峠Ⅱ遺跡、浜川目沢田Ⅰ・Ⅱ遺跡など、宮古市や山田町を中心に、縄文時代中期後半の大集落が多く調査されました。いずれの遺跡でも大量の遺物とともに、綿々と構築された竪穴住居跡や貯蔵穴群が発見され、多くの縄文人による生活の痕跡が明らかになりました。

岩手県内で縄文時代中期の遺跡は、数多く調査されていますが、縄文時代の集落規模が中期に大きくなる様相をこの地域でも確認でき、宮古市・山田町地域は、県内最大級の集落がひしめき合う状況だったといえるでしょう。

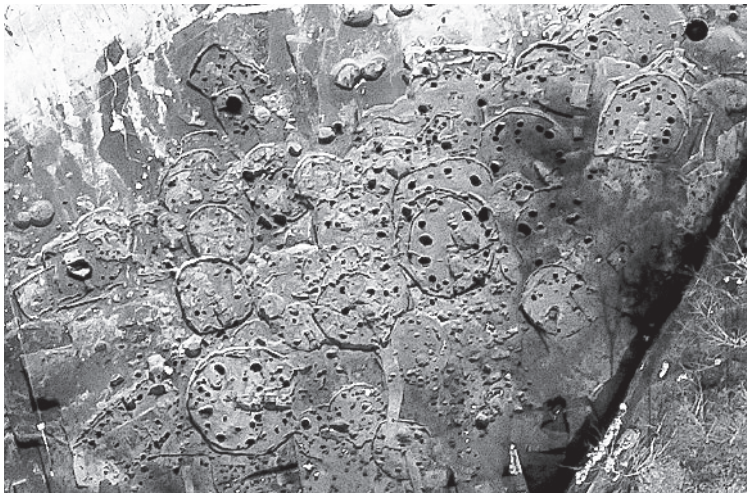
沿岸でさかんに行われた鉄生産

－古代～中世

宮古市根井沢穴田Ⅳ遺跡や払川Ⅲ遺跡、山田町間木戸Ⅴ遺跡、焼山遺跡、田の浜館跡、大槌町田屋遺跡、野田村上代川遺跡など広範囲で鉄生産関連遺跡の調査が行われました。製鉄炉などの遺構が検出されなかった遺跡でも、鉄滓等の鉄生産に関連する遺物は、多くの遺跡で出土したといえます。

焼山遺跡では、古代の製鉄炉が調査されました。製鉄炉は、羽口が操業当時の位置を留めた状態で見つかり、その位置や角度等から製鉄炉の構造を詳細に知る手がかりとなりました。上代川遺跡からは、中世の製鉄炉・排滓場とともに炭置き場や炭窯も見つかり、鉄生産に関わる一連の遺構がまとまって見つかりました。

これまでにも、沿岸部で古代から中世の製鉄炉や鍛冶炉等の発見はありましたが、調査例も少なく、その調査方法を試行錯誤してきた過去があります。それが、復興発掘調査による多くの経験から鉄生産関連遺構の調査も系統的に行うことができるようになりました。見つかった遺構や遺物とともに、調査事例の蓄積は、より詳細に鉄生産の歴史を解明する一助となるでしょう。



山田町　沢田Ⅲ遺跡
多くの竪穴住居跡が検出されました

復興発掘調査の現場から

スピーカーから聞こえてくる音に、作業員の手が止まります。それが翌日のアワビの口開けを知らせる斎太郎節だと知ったのは、復興発掘調査序盤の現場でした。浜が近い現場では、それが当たり前の光景であり、漁業を生業としている地域なのだと改めて思いました。

復興発掘調査最初の年は、宿泊施設の確保が容易ではありませんでした。調査員は、その日その日で宿を転々としたり、女性の宿泊は断られたり…。「本当に発掘調査ができるのだろうか。」「発掘調査をしていて良いのだろうか。」自問自答の日々を過ごす調査員は多かったと思います。それでも、失われる遺跡の最後の姿を記録するため、日々目の前の土に格闘し一日でも早い調査終了を目指してきました。そして、記録とともに心がけたのは、その地域の方々に遺跡の様子を知ってもらうこと。とくに調査終盤に開催する説明会には、毎回多くのご参加をいただきました。中には、初めて発掘現場に足を踏み入れた方も少なくないと思います。「ごくろうさま。」の一言がとてもありがたかったのを覚えています。

復興発掘調査は、終息に向かっています。しかし、それは現場作業のことを示しています。現在、埋蔵文化財センターでは、大量に出土した遺物や記録図面等の整理を行い、報告書作成の作業に入っています。報告書にまとめ記録として後世に残してくこと、そして、調査でわかったことを地域の皆様に還元していく活動が今後なすべきことであると考えています。

埋蔵文化財センター40周年記念事業
「復興発掘調査展」

平成30年1月26日（金）～29日（月）に盛岡市アイーナで「復興発掘調査展」を開催しました。これまでの調査で見つかった資料が一堂に会する初めての機会ということもあり、県内外から多くのみなさんにご覧いただきました。

来場された方から「沿岸の出身で家が流失しましたが、近くで発掘調査が行われていたことは知っていました。成果を見ることができてうれしく思います。」「ふだん見ることのできない遺物が見られて大変良かった。」等の感想を頂きました。中には、「○○遺跡の土器をもっとたくさん見たかった」等のご要望もありましたので、またどこかでご覧いただく機会を設ける予定です。

また、開催期間中には、埋蔵文化財公開講座と遺跡報告会を開催し、展示とあわせて約1000名の皆様にご来場いただきました。

平成29年度 イベントの報告

夏休み！みんなで考古学者 2017

平成 29 年 7 月 26日(水)と27日(木)の２日間、埋蔵文化財センターで考古学の仕事を楽しく体験できる夏休みの恒例イベントを開催しました。２日間で 635 名もの方々が来場されました。内容は、発掘、測量、土器水洗、接合、拓本、展示の６コーナーを設け、３つ以上の体験をクリアすると「ちびっこ考古学者認定証」がもらえるというものです。ほとんどの子ども達が全部のコーナーをクリアし２日間で 381 名のちびっこ考古学者が誕生しました。

平成29年度 岩手県文化振興事業団プレゼンツ 第38回 埋蔵文化財展

平成 30 年２月 16日(金)～18日(日)までの３日間、釜石市民ホール TETTO を会場に埋蔵文化財展を開催し、これまでに発掘調査が行われた釜石市・大槌町内の遺跡から出土した埋蔵文化財を展示しました。また、復興発掘調査が行われた県内の遺跡から出土したものを通じて、縄文時代から中世の歴史をご覧いただきました。

このイベントは、毎年県内の各市町村を巡回して開催しております。来年度は、どの市町村にお邪魔するかご期待ください。

平成29年度 埋蔵文化財公開講座

埋蔵文化財センター 40 周年記念事業の一環として、平成 30 年１月 28日(日)にアイーナで開催しました。盛岡大学文学部教授の熊谷常正先生から「新しい歴史を作るために～復興発掘調査から見えてきたもの～」と題して、県内の復興発掘調査で見つかった膨大な資料を、これからどのように岩手の歴史として活かしていくか、ご講演いただきました。

これらの
催しは、来年度も同じ頃に
開催する予定です。詳細が決まり
次第、当センターのホームページや
博物館等に掲示するポスターでご
確認頂けます。

発　行　岩手県立埋蔵文化財センター
編　集　（公財）岩手県文化振興事業団
　　埋蔵文化財センター
　　〒 020-0853　岩手県盛岡市下飯岡 11-185
電　話　019-638-9001
U R L　http://www.iwate-maibun.jp/
E-mail　i-maibun@echna.ne.jp
発行日　平成 30 年２月 28 日
印　刷　河北印刷株式会社